

# 新元号

## ～新しい時代の幕開け～

金 秀 樹

天皇の退位により皇位の継承に伴う改元が2019年5月1日に行われて4か月になります。平成の時代が終わり新元号は「令和」となり昭和生まれの世代としては3つの時代を歩いていくこととなり時代の流れに想いを馳せる人も多いことと思います。私の祖父（享年103歳）は明治43年（西暦1910年）生まれで100歳までは自分でご飯を作り、晩年は多少のホームヘルパーの力を借りながらも自立して生活していましたことを懐かしく思い出します。「明治」、「大正」、「昭和」、「平成」の4つの時代を生きてきたことは誇りでもあり目指していきたいところでもあります。1914～1918年（大正3～7年）にかけて戦われた人類史上初の世界大戦、1939～1945年には日本が本格参戦した第二次世界大戦を経験している人物は現存では皆無に等しいかと思います。第二次世界大戦の末期にドイツ軍の無条件降伏が実現し、最後に残った日本もポツダム宣言を受諾し1945年8月に戦争が終結しました。第二次世界大戦中の太平洋戦争での犠牲者は軍人230万人、民間人80万人に上ると言われています。太平洋戦争では「神風特攻隊」と言われる特攻作戦が実施されましたことは周知の事実だと思いますが、この特攻作戦では多くの若者が自ら志願してその命を持って自国を守ろうとしたと聞いております。一説には当時の軍からの教育により天皇のために命を捧げることが名誉だと洗脳されていたとありますが、若者の多くが本土に住む家族が他国からの侵攻や空襲の危険に脅かされることから守るためとも言われています。ポツダム宣言は8月14日に日本政府が受諾を決定し15日に国民に発表となり毎年8月15日になると夏の甲子園の名物となっている高校球児による終戦記念日の黙祷が今日でも行われています。戦争大国であった日本に関する歴史は私にとっては生まれる前のことで小・中学校の社会科で勉強した記憶しかありませんが渦中にいた方々には忘れることのできない苦い経験となり負の歴史として現在まで語り継がれてきました。「歴史は繰り返す」といいますが、これからの世界が方向性を誤らないようにするためには歴史の中からよく学び誤りや失敗を繰り返すことのないように英知を発揮することが重要ではないかと思います。戦争でお亡くなりになられた人々の犠牲の上に私たちは生かされていることを忘れてはならないと思います。終戦後の日本は復興に向かい世界に例のない高度経済成長期に入っていきます。1955年頃からおよそ10年間の実質経済成長は年平均10%を超え欧米の4倍程度の成長率となりました。繊維、機械の輸出好調を背景に鉄鋼・化学・電力の素材産業で活発な設備投資が行われさらに石油化学産業が海外より新しい技術を取り入れて技術革新を行い鉄鋼・石油化学のコンビナートが作られ関連産業が賑わっていきました。昭和中期になると国民の所得も増えてテレビ、冷蔵庫、洗濯機などの消費ブームが起こり個人消費や国

内需要も拡大しさらに景気を引っ張っていきました。1970年代になると高度経済成長が落ち着き安定成長へと移行していきましたが石油危機が起こり省エネ・省資源が叫ばれるようになり企業は減量経営を行う一方で積極的にマイクロエレクトロニクス技術の導入を進め経営の合理化が始まりました。後の IT 産業の発展にも繋がっていきます。現在 IT 技術は私たちの生活に欠かせないものとなっており普段使用している「スマホ」や「タブレット」のアプリ、ビジネスでは MS Office やファイル共有サービスなど多くの方が利用しています。事務や経理、自動車産業でも人工知能（AI）が導入されて生きていますので今後もパーソナル、ビジネス問わず IT 技術の利用はどんどん拡大していくものと思われます。

歯科界においては国民の健康意識の向上に伴い、患者の視点を尊重した医療を推進し、質が高く効率的な医療連携体制を構築するためには医療を担う人材の確保と質の向上が挙げられています。高齢化に伴う疾病構造の変化や国民のニーズの多様化、患者の権利をより尊重するための双方向のコミュニケーションの在り方など歯科医師個人が医療人としての基本的な態度、知識、技能を十分に理解し、従来行われていた「疾病を治療して予防する」発想から「健康を保持・増進するためには何をすればいいか」という発想に転換しています。健康長寿の秘訣として共通していることはよく食べてよく動くことです。よく食べるためには歯が重要であることは言うまでもありません。高齢化社会である現在プライマリーヘルスケアの担い手として健康長寿を目指し生涯にわたるホームドクターとしての在り方が求められる時代になってきています。

今の平和な日本ではなかなか人生、命の大切さについて考えることは少ないと思いますが、これらのことを踏まえて戦争を経験したことのない世代のより多くの若者たちが過去の歴史から学ぶべきことができれば日本はもっと力強く「令和」時代が繁栄していくのではないのでしょうか。新しい時代の幕開けをしっかりと見守りながら歯科医師の育成に携わっていきたいと思います。

（奥羽大学歯学部口腔外科学講座 教授）